令和４年度東京都立本所高等学校学校経営報告

東京都立本所高等学校

校長　小山　克之

１　今年度の取組と自己評価　　（　）の数値は、令和３年度である。

（１）教育活動への取組と自己評価

ア　学力向上体制の確立

学力向上委員会を中心に都立学校学力スタンダードの策定やその活用とともに、外部模試の分析、インターネットを活用した学習活動の工夫、教員の授業観察等を通して、生徒の学力向上を図った。また、外部模試等を活用した生徒の学力の定点観測を行うことで、ホームルームでの面談や教科会等での活用に努めた。

生徒の自学自習の支援を図るため、昨年度に引き続き、放課後の生徒の学習支援に向け、自律予算によるチューター制度を実施した。相互授業参観は３回の期間を設けて実施した。また、オンラインによる授業等、教科指導の工夫や改善に努めたことで、授業に対する肯定的評価は８５％を達成できた。また、習熟度別授業等でのきめ細やかな指導をはじめ、生徒を朝学習や講習に取り組ませることで、その学習意欲と学力の向上に努めた。なお、家庭学習時間は週当たりの平均が、目標７６０分に対して７００（６５０）分に留まったことは、次年度への継続的な課題である。今年度は分散登校や時差登校を行わず、通常時間割で授業や HR を行うことができたことは大きな成果となった。

今年度、英語検定は１～３学年全員受験として、２級以上合格者１０８名（９６名）、準２級２０９名（１２８名）と２級の合格者数が上昇し、また、準１級の合格者 3 名と難易度の高い級へ挑戦する生徒が増え、合格者も出た。読書の奨励については、昨年に引き続き今年度版の「本所の１００冊」を制定し、全生徒に読書感想文を課すことやビブリオバトルの取り組みもあり、未読者率は目標０（０）％未満に対して０％と目標を達成した。また、「総合的な探究の時間」よる文献の調査などでの図書の貸し出し数の増加が見られた。昨年度と同様に教科間、学年と教科の協力による外部模試の分析や、定期考査の検証と学力データバンクの活用等を進め、進学指導力の向上を図った。

今年度も大学進学希望者の自己実現に向け、様々な機会を利用して機会あるごとにチャレンジ精神の開拓を指導することで生徒の意識を啓発し、一般受験生徒の啓発・増加に努めた。その結果、大学入学共通テスト受験者は目標１７０名以上に対して１８６（１６９）名で目標を達成した。また、本年度は「総合的な探究の時間」の成果を利用した総合型選抜に挑戦させた。長期休業日中の講習を今年度も講座の同時展開を極力解消したことにより、受講者数が増加した。７３講座延べ１２６７名受講、朝学習とともに、共通テスト対策講習及び朝・放課後講習は実施できたが、生徒一人ひとりの受験指導等の支援は引き続きの課題となる。また、一般受験の増加に伴い、浪人生の割合が増える中、進路実現率は目標９７％に対して９５．２（２２０／２３１名）（９７．４）％であった。難関大学の現役合格者数は目標６０名以上

に対して、国公立１名、早慶上理７名 GMARCH３８（１７）名、日東駒専１２７（７４）名を含め１７４（９３）名と大きく数字を伸ばした。来年度も、生徒の挑戦する意識を醸成することで、進路決定における第一志望の実現を支援していく。

イ　キャリア教育の充実

キャリア教育プログラムの充実に向け、様々な取り組みを行った。「総合的な探究の時間」において１年生では、生徒自身が自己の興味・関心を８つの学問分野の新書に触れる機会を設けた。また、SDGs 講演会を開催し、国際社会とのかかわり、課題を解決するための意識の醸成に努めた。2 年生では、個人探究の実践研究として、近隣の福祉施設、保育所等においてインタビュー調査を行うための支援をし、主体的に学ぶ姿勢の育成に努めた。さらに、2 年間の探究の成果としての論文作成を通して、調査、研究に基づいた論理的思考、表現力の育成に努めた。さらに、1，2 年生合同のプレゼンテーションを実施し、同じ分野を探究する者同士が協働、切磋琢磨する関係の土壌づくりを行った。3 年生では、1，2 年生に対するポスター発表や論文の要旨集の作成による伝える力の育成に努めた。進路選択において適性、職場環境を把握する機会となった。１年生全員・２年生の希望者にはオンライン「夢ナビ」に参加、２年生対象の「大学説明会」と１年生、２年生の全員に「大学出前授業」、１年生には探究学習として「８分野講演会」など、進路・探究部や学年を中心にキャリア教育の推進に取り組んだ。また、昨年度に引き続き、今年度も感染症対策のため規模を縮小してインターンシップを取り組んだ。今後については、生徒や保護者のニーズに応えることで、その活性化を図っていく。

キャリア教育に対する肯定的評価は目標の８０％に対して、昨年度の８８．８％から８８．０％と高い水準保っている。なお、一般受験へ挑戦する生徒の増加傾向は変わらず、引き続き、キャリア教育の推進での生徒のチャレンジ精神の開拓に努めていく。

ウ　規範意識の醸成

登校時の正門指導をはじめ、挨拶の励行、遅刻指導、頭髪・服装指導を継続的に徹底し、落ち着いた校風の維持を図り、良い生活習慣の中で社会人としてのマナーを身に付けさせることで、遅刻率は目標１.２％以下に対して全体では２．１６％と昨年度の１．５９％より増えている。次年度は遅刻者を減らすための朝学習の意義と工夫の統一を図る。また、授業時間のチャイム始業・終業を徹底することで、組織的な授業規律の徹底に努めた。なお、正門指導等での自転車での通学マナーの啓発とともに、４月の交通安全教室、１２月の薬物乱用防止教室により、交通安全等について指導・徹底するとともに、道徳教育についても学校全体で推進し、交通事故等の防止に努めた。さらに、年３回のいじめ対するアンケート実施を開催することで、その防止に組織的に努め、いじめは０件となった。引き続き、本校の伝統である落ち着きある校風の維持とともに、いじめの防止に努めていく。

エ　健康の増進と体力の向上

栄養・睡眠・運動と健康の関係について、各教科及び部活動・特別活動で指導し、

生徒の健康維持、体力向上を図らせることで、日頃より、規則正しい生活習慣を身に付けさせることに努めたが、皆勤率は目標２０（２０）％に対して２３.５％（２３．１％）と高い水準を維持している。また、体育祭やマラソン大会、球技大会の体育的行事を充実させることで、生徒にスポーツする楽しさを味あわせるとともに、生徒の基礎体力の向上を図ることを目標としたが、今年度は感染症対策を徹底し、体育祭、球技大会、マラソン大会と全ての体育的行事を実施することができた。次年度は、更に充実させ、体力テストを実施し、生徒が意欲的に取り組む体制を構築することで、体力の向上に努めていく。

オ　部活動及び特別活動の活性化

生活指導部を中心に、各部活動の目標を年間計画で設定し、その実現に向け計画的に日々の活動に取り組むとともに、儀式や全校集会での表彰やホームページでの活動報告等により、部活動の活動や実績を全体で共有し意欲を喚起した。また、ボート部が全国大会に出場した。

部活動参加率は目標９０％に対して、９２％で高い加入率を維持している。研究部（文科系部活動）についても、文化祭は感染症対策の観点から生徒が自主的に考案し、企画・運営した、「部活動全般の充実」に対して、その肯定的評価は目標８５％に対して８５．４％と目標を達成した。次年度は、手狭な施設を効果的に活用しながら、部活動の充実を図るとともに、生徒の自主的な活動を組織的に支援することで、文化祭とともに、芸術鑑賞教室や体育祭、マラソン大会、球技大会等の学校行事の活性化も図っていく。

カ　国際理解教育の促進

グローバル社会で活躍する人材の育成を目指し、「地球のステージ」等の講演や、「TOKYO GLOBAL GATEWAY」を利用して、国際理解への関心を高めている。さらなる国際理解と英語教育の向上につなげる。

（２）重点目標への取組と自己評価

ア　組織的な課題解決と服務規律の徹底

企画調整会議の週１回の開催や必要に応じた面談等において、管理職と教職員の意見交換を行うことで、学校の課題を明確にし、組織的な課題解決を図った。また、校内研修の実施により組織マネージメントを向上させ、人材育成を組織的かつ計画的に行うことで、教職員の経営参画への意識の啓発に努めた。また、日々、注意喚起を行うとともに、服務事故防止・個人情報紛失防止・体罰防止研修を開催することで、服務事故の防止に努めた。さらに、事案決定及び予算策定・執行について、適正かつ迅速に行うことで、予算や施設整備については、計画的かつ適正な執行に努めた。なお、次年度も会計事故等の防止に努めていく。

イ　地域及び保護者との連携強化

公開講座の開催とともに、「総合的な探究の時間」において地域活性化分野の生徒および家庭科部部員を地域貢献の体験活動として、商店街で開催される行事に参加させ、学校として地域との連携を図った。また、年に３回開催する学校運営連絡協議

会では、学校評価委員会による学校評価等を活用することで組織的な課題改善に努めた。次年度は、地域等への情報発信のさらなる充実を図る。

ウ　広報活動の充実

ホームページを定期的の目標１６０回に対して年８０（１０３）回であり、ツイッターでの情報発信を多く取り入れたが、ホームページの充実が次年度への課題である。また、校内での学校説明会を中学生・保護者対象で５回開催した。さらに、外部での説明会に２回参加した。感染症対策の関係で、中学校訪問は３校できたが、中学生や保護者や中学校教員等にもホームページを活用し、計画的に対応することで、本校の教育活動を広く知ってもらえるように努めた。なお、入学選抜では、中進対予想倍率１．１７（1.３８）倍、推薦応募倍率２．７１（２．８７）倍、一次応募倍率１．４０（１．５１）倍と高倍率は下がっているが、令和 5 年度は 7 クラス募集であり、受検者数では令和 4 年度入試より多かった。引き続き、来年度も広報活動への取り組みを工夫することで、本校を第一志望とする受検生を多くするように充実を図る。

エ　防災体制の構築

総務部を中心に防災体制を整備した。防災教育推進委員会を年３回開催することで、地域町会や消防署等の外部との連携を強化や広域避難指定公園までの防災訓練等の企画・課題検討等に努め、緊急時の対応能力を高める計画であったが、感染症対策の関係で、防災訓練は形を変えて実施した。１年生の防災訓練では本所消防署の協力を得て応急技能講習を実施した。次年度は、避難のルールを徹底し、消防署や行政等の地域の関係機関と連携することで、計画的かつ実践的に実施していく。また、地域での防災連携に努めていく。

オ　安心できる学校生活の維持

新入生の全員面接や校内研修会の実施とともに、「相談室だより」の発行など、スクールカウンセラーを活用することで、生徒の心の健康維持に努めた。また、7 月のセーフティ教室、１２月の薬物乱用防止教室の実施により、生徒の危機管理への意識向上に努めた。さらに、怪我や熱中症、感染症の未然防止に努めるとともに、学校保健計画に基づき、心身の健康に関する取組を行い、健康の維持・増進を図った。次年度も組織的な節電に努めながら、環境週間の取り組み等により、省エネ等への意識を高めるとともに、ごみの減量も含めて、生徒指導・保健部を中心に、校内の清掃を徹底することで、清潔な環境を維持していく。

２　次年度以降の課題と対応策

（１）学習習慣の確立と授業力向上

ア　生徒の自学自習を支援するため、スタディサプリ、ｃｌａｓｓｉ等の活用と、各学年と関係分掌の連携を強化して、家庭学習時間等の拡充を図る。

イ　各教科がきめ細やかな指導に取り組み、生徒の学習意欲と学力の向上に努める。

ウ　相互授業参観をはじめ、授業力向上のための校内研修を充実させる。

エ　外部有識者や学校経営支援センターの指導、校内研修の充実により、学校外の動向を把握し校内体制の改善を図る。

オ　オンライン学習などを充実させ、長期休業期間、日常での家庭学習、補習等に積極的に活用していく。また、一年生より導入する一人１台端末の効果的な活用の研修を行い授業力の向上のための工夫を行う。

（２）生活指導と進路指導の充実

ア　正門での挨拶指導の継続等により、落ち着きある校風を維持し、良い生活習慣に中で規範意識や社会人としてのマナーを身に付けさせるとともに、身だしなみ指導の充実を図っていく。

イ　引き続き、生徒のチャレンジ精神の開拓を図り、その進路決定における第一希望の実現に向け、生徒一人ひとりの模試結果を分析するケース会議を年３回は実施して進学指導体制を構築する。

（３）広報活動の充実

ア　内外の学校説明会や部活動体験・授業公開、中学校・塾訪問を組織的・計画的に実施する。塾と年２回以上の交流で、本校の教育活動の紹介と中学受検生や入試情報を得る。

イ　ホームページやパンフレットのさらなる改善に努め、教育活動の情報発信を充実させる。